

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府亀岡市大井町並河3-24-1								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	ナイテック工業株式会社 代表取締役 磯田 典理								
事業者の主たる業種	印刷・同関連産業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	22年 4月 ～ 25年 3月								
基本方針	環境マネジメントシステムをレベルアップさせ、環境目的・環境目標の設定・実施・見直しにより継続的改善に努める。（環境方針で、電気・ガスの効率的使用による地球温暖化防止を重点的に掲げている。）								
推進体制	代表取締役をエネルギー管理統括者として社内エネルギー管理・環境連絡体制を整え、エネルギー削減・CO2排出量削減への取組を実施。又、月1回グループ会社全体で環境保全委員会を開催し、工場・事業所単位で省エネ活動の実施状況の報告を行っている。								
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	環境マネジメントシステム名称	ISO14001：2004							
	適用範囲	亀岡工場							
	取得年月日	2003年12月19日							
	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （21）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （24）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	12,910.8 t	11,889.8 t	-7.9 %	10,882.8 t	-15.7 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
C その他排出区分	t	t	%	t	%				
排出合計	*1 12,910.8 t	*2 11,889.8 t	-7.9 %	*4 10,882.8 t	-15.7 %				
実績に対する自己評価	22年度の実績は京都工場の廃止の影響が大きく、亀岡工場単独での前年度比は100.7%と微増している。これは亀岡工場において環境対策設備（VOC排出ガス処理装置・ボイラー中和装置等）を設置した影響である。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	亀岡工場	二酸化炭素換算 生産量（千m）	0.715 t-CO2/千m	0.679 t-CO2/千m	-5.0 %	1.040 t-CO2/千m	45.5 %		
	京都工場	二酸化炭素換算 生産量（千m）	0.382 t-CO2/千m	0.000 t-CO2/千m	-100.0 %	0.000 t-CO2/千m	-100.0 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
実績に対する自己評価	京都工場は計画通り閉鎖。亀岡工場原単位の増加は生産量が前年比69.2%と大きく落ち込み又、大型の環境対策設備を設置したことによるエネルギー使用量の増加に起因する。								
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	（購入量）	t	（削減量）	t	（購入量）	t	（削減量）	t
	削減量等合計			*3 t			*5 t		
	差引排出量 （排出合計-削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
	*1 12,910.8 t	(*2)-(*3) 11,889.8 t	-7.9 %	(*4)-(*5) 10,882.8 t	-15.7 %				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニケーションの一環として小学校環境学習の実施</li> <li>・工場内緑化の推進</li> </ul>								
特記事項	平成22年度での亀岡工場の原単位実績値が大きく増加した。これに関しては平成22年度は生産量が前年比69.2%と大きく落ち込んだことと、同年に環境対応として大型溶剤排気処理装置2台及びボイラー中和装置2台を設置したことによりエネルギー使用量が増加したことが大きく影響している。								

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。